

# 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

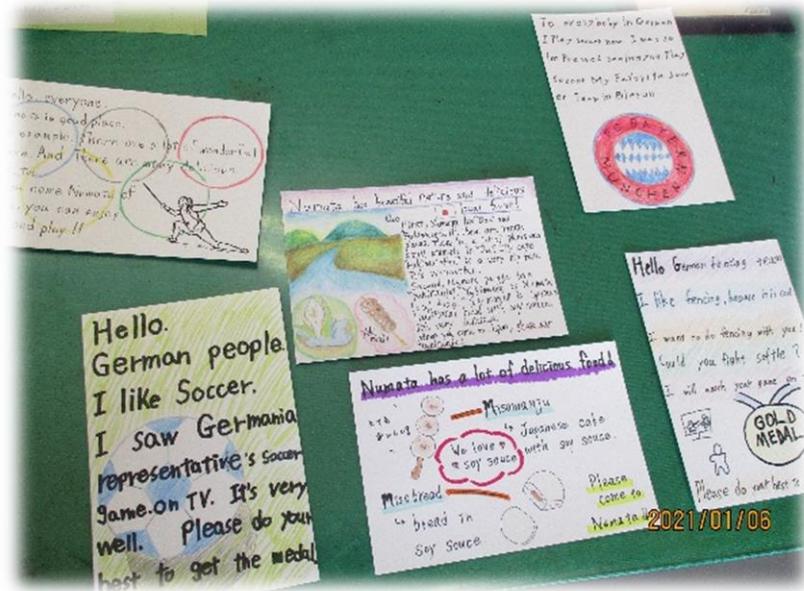
## 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【群馬県】

学校名【沼田市立沼田南中学校】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	<p>全校生徒（男子 82名 女子 92名 計 174名）</p> <p>第1学年（男子 36名 女子 35名 計 71名）</p> <p>第2学年（男子 27名 女子 27名 計 54名）</p> <p>第3学年（男子 19名 女子 30名 計 49名）</p> <p>教職員（22名）</p> <p>保護者</p>
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（国語、英語、保健体育、道徳、特別活動、総合的な学習の時間）</p> <p>② 行事名（運動会）</p> <p>③ その他（特別講演会、校舎内の環境整備）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	<p>オリンピック・パラリンピックについて学習することで、オリンピック・パラリンピックに対する興味・関心を深めるとともに、オリンピズムについて知り、オリンピックムーブメントを推進する。</p>
5 取組内容	<p>【社会】</p> <p>○1年生 地理 「世界のすがた」</p> <p>「世界のすがた」の学習の中で五大大陸の学習と兼ね合わせてオリンピックの学習を行った。近代オリンピックの理念や五輪の色と大陸の関係について学習した。</p> <p>【英語】</p> <p>○1年生・2年生 「ホストタウンに手紙を送ろう」</p> <p>沼田市で練習を行っているドイツのフェンシングチームに向けて手紙の作成を行った。</p>



03年生 「日本文化紹介」

日本の文化をオリンピック選手や観光客に紹介する学習を行った。

【保健体育】

0全学年 「東京五輪音頭2020」

東京五輪音頭に全校で取り組み、東京オリンピック・パラリンピックへの興味・関心を高めた。運動会での発表を目指し、練習に取り組んだ。1年生と3年生の合同体育を行い、3年生から1年生に振付を教える時間を作った。

1年生は授業参観にて保護者と一緒に踊る機会を作った。



【道徳】

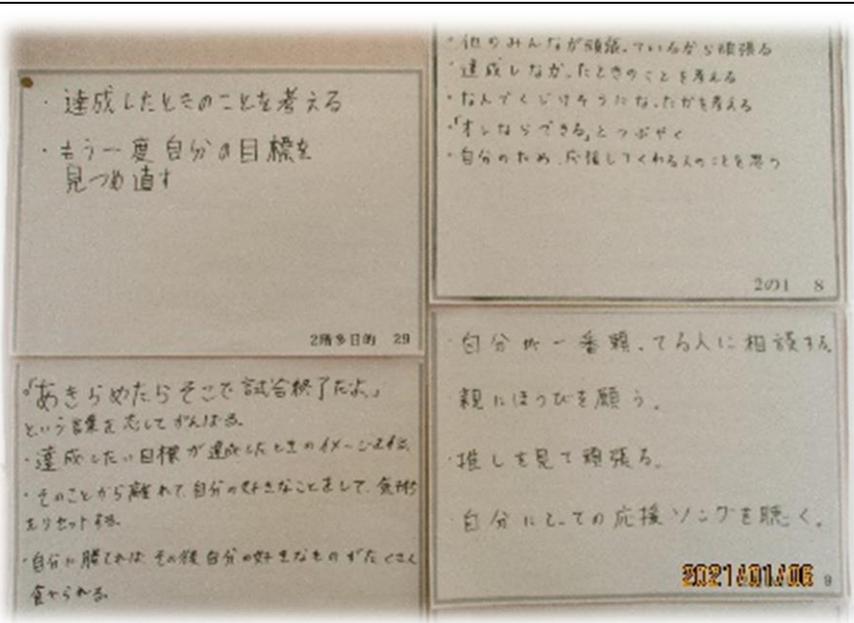
02年生 「自分の弱さと戦え」(国枝慎吾)

主題名「自分の弱さの克服」D-22 よりよく生きる喜び  
※パラリンピックとの関連

7/15 道徳「自分の弱さと戦え」

◎「達成したい目標があるが、自分に負けてしまいそうだ…くじけてしまいそうだ…」という状況になったとき、あなたならどう乗り越えますか。





03年生 「No Charity, but a Chance!」  
 主題名「共に生きる社会の実現」  
 C-12 社会参画、公共の精神  
 ※パラリンピックとの関連



【行事】  
 ○運動会

昨年度から取り組んでいる「南中聖火リレー」は新型コロナウイルス感染拡大防止のため校外に出ることなく、クラスを順番に回し、聖火をつないだ。  
 昨年度作成した聖火台も活用した。「東京五輪音頭」は各運動部のユニホームを着用し、よりオリンピックへの意識を高めた。  
 当初は保護者や地域の方々とは踊る予定であったが、新型コロナウイルスの関係で生徒だけの発表となった。





○オリンピック・パラリンピック特別講演会・義足体験  
 義肢装具士 沖野 敦郎さん  
 パラアスリート 大島 健吾さん



【その他】  
 ○オリンピックコーナー設置



○ピクトグラムの掲示



<p>6 主な成果</p>	<p>○新型コロナウイルス感染症の影響により、活動を制限せざるを得なかったが、昨年度の取組を継続し、工夫しながら取り組むことができた。</p> <p>○2・3年生は昨年の取組を生かして、1年生に対して「教える」「伝える」ことができ、学校で団結して取り組むことができた。</p> <p>○保健体育の授業だけではなく、各教科等の授業や行事を通して、日常的にオリンピック・パラリンピックに触れることができ、生徒が身近に感じることができた。</p> <p>【オリンピック・パラリンピック講演会の感想より】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいのある人だから体のすべてが不自由だとは限らない。一部が人と違うだけでそれ以外は健常者と変わらないことが分かった。</li> <li>・大島さんが明るく話しているのを見て、こちらが深く考えすぎるのもよくないと感じた。</li> <li>・義肢装具士という仕事は知らなかった。パラアスリートを支えるだけではなく、一般の人の義足も作っていることに驚いた。</li> <li>・義足のアスリートが走っているところをはじめて見た。パラリンピックはあまり見たことなかったが、今度は注目して見てみようと思う。</li> </ul> <p>【義足体験より】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・義足は思っていたより、歩くことが難しかった。片足で跳ねてみたが、それはもっと難しくて義足を着けて生活する人がすごいと思った。</li> <li>・バランスをとるのが難しく、走るのはたくさん練習しないとできそうにないと思った。パラアスリートの人たちは当たり前のようにやっているのがすごいと思う。</li> </ul>
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>○沼田市がホストタウンとなっているドイツのフェンシングチームへ沼田市の紹介や応援の手紙を送ったり、パラリンピックの候補選手を招いた講演会を行ったりするなど、アスリートを近く感じられるような取組を行った。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>○新型コロナウイルス感染予防対策の関係から、今年度は保護者や地域、学区内の小学校との連携が薄くなってしまった。ICT機器を利用したリモート形式の交流など、新たな工夫も考えられると良い。</p> <p>○オリンピック・パラリンピックが保健体育の学習だけにとどまるのではなく、他の教科学習、生徒指導など様々な教育活動に関わると考えることで、オリンピック・パラリンピックが目指すオリンピックムーブメントに迫れると考える。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>○地域・保護者との連携を強化していく。新型コロナウイルス感染防止の対策もあるので、連携の取り方を工夫していきたい。</p> <p>○「東京五輪音頭」は南中学校の伝統として、先輩が新入生に伝える形ができたので、来年度も継続していきたい。</p>